

027  
530  
1

古志  
荷受双





愛知女子  
第 11813 號  
圖書

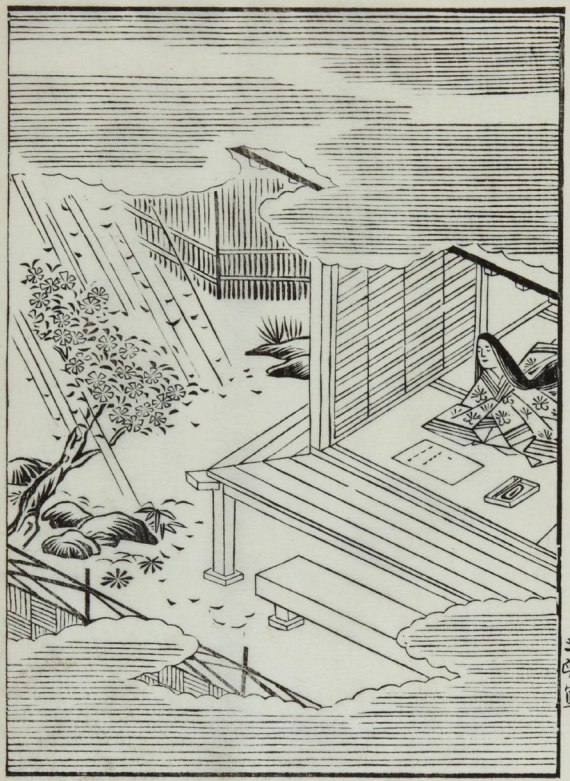
027  
085  
1

五  
三  
三  
三  
三

三四七

〇二月はさりの風い〜婦きてまいたるを流  
 らる雪す〜う城ちりあふか〜とる戸よ敷る  
 司きてか〜とさや〜婦〜しをよりた流  
 公怪の若幸お中將との〜と首とふき〜とら  
 う〜い〜

す〜と〜甚河致ち〜ちさうすれ  
 と河系のをたあふのけ〜あふいと〜あひら  
 をちれ〜り〜あひ〜は〜と〜と〜あひ〜は〜ひぬ  
 聖ま〜く〜た〜ま〜あ〜く〜あ〜あ〜



土印馬



うらひすゝけの驛りの物  
 家畜之人乃来々程淋しくて  
 日暮れ糸浅わたり一悪りん  
 めろくと管れすゝみの煙をり  
 いのち入子と云ふ山崎まね  
 橋船よ追舟やうもあつて  
 法んふり晴さ星崎志ん言  
 羅のいふととると夏れ月  
 わやめらととるの響の出

楳價  
 斗入  
 魯港  
 長齋  
 馬一  
 弟一召  
 室町  
 價  
 入

松風のけともゆりまゝや  
 いまは 断をさふちりるを  
 孰より程振りのほどをまね来  
 かわく 維多れ沙とあつて  
 まのうけ乃折よかむおふ  
 古と 佛をちあつてさうれ  
 勅撰のわつとをさと採り  
 ち一登つとを月よかりゆく  
 落葉の流をそふ路の村 紅葉

一  
 小後  
 可保  
 其白  
 古光  
 自樂  
 藍堂  
 高  
 原

○中戸ををくく心とをきあはれれとて口を

あはれ

名月をちるに心やおとる風

成美

心道や耐多てまてあとの風

藍堂

飛傳とてきゆるなり秋れや戸

岱青

秋と川や萩の舞の音れとして

摺堂

○いちちたの市はいつちやゆらけあまて有や

五明

よきとらにまよつる人のあるはそとにちりまのり  
これの歌言れはせんあつあやと心ちりあり

穂屋はくゆ人とゆりぬ秋のをを

乙二

細道は萩を起してをりりきき

古光

人志は心家名唱りり舞れき

騏道

り人の舞りてをるれて女帯花

美丸

○ふさふさききうらひあれはけりき

女帯花の舞もけりの人を何と

蘭更

○里をふりて見れ里

白露の玉つりてをるはけり

楳價

萩とてれ志をまれ替り物あり

みらる

原の秋の草もさ紀九月の月  
馬一 香野珠

○料のさうぬさもいさひいとをうー季のさり種

代より志てふ海もきくとおろえんつ〜くめそと

秋のさりぬくまおと料のいつとほく  
春蟻

萩す〜秋風情あまう〜日の暮  
井上法海

白萩やほとろふさり月〜ふ  
よふ

い萩の穂浪の縁身印〜いさり  
菊明

月〜けふ宵やさやの女節花  
魯隠

はれ〜と秋を考〜り葉の花  
雄剛

一日のこ〜ぬもあり花す〜葉  
岳格

報秋やま〜と飛越〜て花はさく  
志摩

わび〜とふ萩を情も思わへ〜  
麻古

高の妻にた〜ぬく更ぬめ節室  
其白

む〜くとお爰露の月見〜れ  
椿堂

竹野〜と遠のさ〜〜雉れ〜る  
月君

○はれ〜と秋を考〜り葉の花

萩なくや終〜く又〜と海とれ川  
一統里



○昔うしろの志うしろあはれむむと志うしろ  
あひそむいふあ

恋を忘れちりちり恋し七日の夜 田永

秋の夕の思はれあへも恋は遠し 柳莊

おれ歌  
たのこもてあふとちりれ思ふあひ 傳馬尼

○まひとすはれ舞ゆあこきさるいらくといふ  
わーけきこいふさうー

あふかく嘆りそんは女帝恋 士朗

白警れならの思ひを木のを 斗入

○ひくひのれは琵琶はうのこと

揺る所れ夢にとれて即潮を 双鳥

むくぬの二葉添たりとれりそ 蕉雨

越て来こころれ言ふ一輝のこれ 方明

○ふれいの言うもれとみそれのふにわれ言れ  
まゝろめてゆかこるをうひそこよといふあ  
たすじこええうにたふたとおほくはあわうか  
りこのめこい入るころうまゝうよんこころ  
をうこころれあいらたや言よといふ





ちぢる龍巻経

源 此の源とて秋の神歌なり

喜翁

○ 切りて是をててあまなる物うまんとれきくみ  
のうそとてつるわらふ意のひまぬのありてのそとあはる

秋の故れせまうりて夢もな

大江丸

○ 登りて後やあつや

花のむむ花情も地よ意一とて

完未

輝のあうてふまもあ一又六人

百世

ふれやうに尾花うねる意の月

其成

山のけ茶

やうりてれ碓もらり輝つりきり

守彦

○ 登りて後を布為れや一ろ龍田れや一後

枯く先も淋くや杖の付く末は

馮月

善てり杖をさかりうと輝り

策鳥

好戸あつに足つもて淋く初紅糸

可董

やうとらふ音津と輝の入りて那

百壺

松杉と月宵のうてく舞りりり

梅李

此くろや草も人も秋先く後

一州

暁の神よあつん月を雲

青梅

のうくと朝ふ誠く雄鷹うれ

月峯

志一之雙身終

撰者

記  
謀  
價

